

登録コード	E8266400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	関 良徳	
英文授業名	Graduation Thesis					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生		
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	・法的領域における個別の問題について, 自ら問題設定・調査・研究を行い, 解決する能力を身に付ける。	
	教育活動を支え, 実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	・自らの研究成果をもとに社会科の授業教材を開発し, 実践する能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	本演習は, ①研究テーマの設定, ②調査・研究手法の決定, ③調査・研究の遂行, ④研究論文の執筆方法解説, ⑤研究論文の執筆, ⑥研究論文の発表とそれにもとづく討論, の各過程からなる。それぞれの段階で, 教員が適宜アドバイスをを行う。							
(5)授業計画	第1回: 各受講生による研究論文のテーマ設定。 第2回: 各テーマについての調査及び研究の手法についてアドバイスをを行う。 第3回: 各テーマの研究手法について報告及び検討を行う。 第4回: 調査・研究の遂行(1): 基本文献の講読 第5回: 調査・研究の遂行(2): 基本文献についての報告とディスカッション 第6回: 調査・研究の遂行(3): 論文概要と目次について報告を行う。 第7回: 研究論文の執筆方法について解説する。 第8回: 研究論文の執筆と報告(1): 序章及び第1章執筆分につき報告を行い, 検討する。 第9回: 研究論文の執筆と報告(2): 第2章執筆分につき報告を行い, 検討する。 第10回: 研究論文の執筆と報告(3): 第3章執筆分につき報告を行い, 検討する。 第11回: 研究論文の執筆と報告(4): 第4章執筆分につき報告を行い, 検討する。 第12回: 研究論文の執筆と報告(5): 第5章及び終章執筆分につき報告を行い, 検討する。 第13回: 全体の再検討: 研究論文全編について再検討し, 修正等を施す必要がある部分を明確化する。 第14回: 発表会: 研究論文の発表及びそれについての討論を行う。 (授業最終回到授業アンケートを行う。) ＊本授業では, 教育実習等と日程が重ならないように, スケジュールの調整を行う。							
(6)成績評価の方法	・卒業論文(60%)、取り組みの過程(20%)、最終発表会または報告会(20%)として評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可							
(7)成績評価の基準	＜社会科教育コース卒業論文評価基準＞(コース共通) 1. 先行研究を踏まえているか(検索、収集、理解など) 2. 研究方法是適切か(データ収集・分析、フィールド、文献(論文、史料、資料)の扱い方など) 3. 独自性があるか(テーマ、問題設定、視点、発見、考察など) 4. 論旨は明確か(論理性、表現など) 5. 形式は整っているか(構成、分量、誤字・脱字、注、文献リストなど) 6. 研究倫理は守られているか(合法性、引用ルール、コピー禁止など)							
(8)事前事後学習の内容	授業の最後に次回の事例を示し, その事例に関して, 授業内容の復習を兼ねた課題レポートを作成する。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って, 60時間以上の時間外学習が必要となります。							
(9)履修上の注意	一定期間内に調査・研究の遂行と論文の執筆を行い, その成果について定期的に報告しなければならい。							
(10)質問, 相談への対応及び連絡先	授業時間中, 授業後, オフィスアワー等で質問・相談を受け付ける。							
【教科書】	テキストは使用しない。資料等を適宜配布する。							
【参考文献】	授業時間内に適宜紹介する。							